

講義名	心理学実験演習					授業形態	
担当教員	池田 曜子／銅直 優子／福田 哲也／吉村 典子	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 1時限／後期 金曜日 2時限				
		単位数	4	履修開始年次	2年生	ナンバリング・コード	

主題と概要

[illegible]

到達目標

- ①心理学的現象を科学的に証明するための実験・調査手法を理解することができるようになる。
- ②実験・調査のデータが分析できるようになる。
- ③Excelを使用し、表やグラフを作成することができるようになる。
- ④実験や調査結果をもとに報告書を作成することができるようになる。

提出課題

授業中におこなった実験・調査に関する報告書を最終レポートとして提出してもらう。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

レポートとして提出された実験・調査に関する報告書は添削し、修正点等のフィードバックが行われる。

評価の基準

受講内での実験取り組みの態度や理解度 (50%)
最終レポート (50%)

履修にあたっての注意・助言他

毎回の出席と6種類の実験のレポート作成が必須となる。
1回でも欠席する（遅刻の場合は15分未満3回）と、レポートの作成が困難になるため、原則、遅刻・欠席をしないように気をつけること。
レポートをすべて提出していても、点数が60点以下の場合は単位取得はできない。
なお、この科目は認定心理士資格取得の必修科目である。
資格申請時には、実習リストの提出が求められる。

教科書

.使用しない。				

参考図書

なし				

その他

プリント資料を授業中に配付

授業計画

- 1 実験レポートの書式とユーザラーシーの構成に関する講義・実習の実施 (担当：福田)
- 2 実験レポートの分析・実験レポートの作成 (I) (担当：吉村)
- 3 ストラップ効果の実験の計画・実験レポートの作成 (II) (担当：吉村)
- 4 対人関係に関する講義・実験レポートの分析 (担当：福田)
- 5 実験レポートの作成 (II) 実験レポートの作成 (III) (担当：福田)
- 6 ストラップ効果の実験の計画・実験レポートの作成 (IV) (担当：吉村)
- 7 実験レポートの分析・実験レポートの作成 (I) (担当：吉村)
- 8 ストラップ効果の実験の計画・実験レポートの作成 (V) (担当：吉村)
- 9 実験レポートの整理・実験レポートの分析 (担当：福田)
- 10 実験レポートの作成 (VI) 実験レポートの作成 (VII) (担当：吉村)
- 11 ストラップ効果の実験の計画・実験レポートの作成 (VIII) (担当：吉村)
- 12 実験レポートの整理・実験レポートの分析 (担当：福田)
- 13 レポート作成に関する講義・データ解析結果の処理と結果の記述 (担当：柳直)
- 14 レポート作成について (担当：柳直)/心理学研究法としての観戦法の特徴 (担当：池田)
- 15 調査レポートの作成・調査レポート作成 (担当：池田)

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識獲得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	○	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	○	カ：演習、フィールドワーク
キ：その他（A～L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

科目別46種類の実態・実情と観察を要する実地に行うもの。そのため、毎回新し15分以内に取り組みたい。必要資料を配付される。その課題について説明がなされる。配付された資料を受領する際に、理解できない部分を明らかにし、受講生には不明な部分について質問できるようにしておくこと。(2時間)

毎回受講後にはその資料をもとに講義内で指示のあった部分について次の講義まで作業を完成させることが重要な復習となる。(2時間)

詳細は、授業内容に各担当教員から指示・説明があるのでそれに従うこと。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

目標②③を達成することで、DP①の「社会の仕組みや働き、日常生活や文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる」に貢献できる。
目標③④は、よりよい人間社会を創造することができ、社会に貢献することができる。
目標②④を達成することで、DP②の「実際の社会共創活動、ビジネスに実践的に活用することができ、能力を高める」に貢献できる。
目標①④を達成することで、DP③の「心理学的研究法に関する基礎的知識」を身につけ、さまざまな場面・場面での心理と行動を科学的に分析し予測することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

双方向授業は実施しない。

実務経験の有無及び活用

備考